

未来に向けて考え続け、よりよい社会を切り拓く子供が育つ授業の創造

—「地震・津波にそなえるまちづくり」の実践を通して—

鳴門市林崎小学校 教諭 桂 卓史

1 主題について

社会部会研究主題「未来に向けて考え続け、よりよい社会を切り拓く子供」を育てるには、自分たちの住む地域についての認識を深めることにより、子供が地域社会の一員としての自覚をもつことが必要であると考えた。さらに地域の一員として自覚を深めることで、よりよい社会を切り拓くためにどうすれば良いかを考えることができる子供を育成できるのではないかと考えた。

本校は鳴門市の沿岸部に位置している。本校周辺はかつて塩田地帯であり、現在は住宅地等の平地が広がっている。このような立地から南海トラフ巨大地震が発生した際には、津波による甚大な被害が予想されている。そのため、鳴門市や川東地区自主防災会などが中心となって地震津波災害から人々の命を守るための取組がなされている。

本校すぐ側には妙見山がある。山頂には「トリーデなると」という施設があり、本校の子供は毎日のように「トリーデなると」を目にしている。そこで、「地震にそなえるまちづくり」の単元導入に「トリーデなると」を取り上げることとした。実際に妙見山に登ったり、鳴門市から「トリーデなると」の説明を聞いたりするなどして、「トリーデなると」は川東地区（撫養川以東）の重要な避難施設であることや、川東地区は南海トラフ巨大地震で甚大な被害が出ると想定されている地域であることを再認識し、「トリーデなると」以外に地震津波災害から私たちの命を守るための取組がさらにされているのではないかと気付くようにさせたい。さらに、市役所や自主防災会の人話を聞き、学習を進める中で、自分たち自身にも地震津波災害から命を守るためにできる取組があることに気付かせるようにすることで、川東地区に住んでいる地域の一員としてよりよい社会にするにはどうすればよいか考えることにつながるのではないかと思ひ、本実践を行った。

2 研究の仮説

(1) 単元構想と振り返りの工夫

① 子供の意識をつなげる単元構想

地域の防災拠点であり、本校校区のシンボリック的存在である「トリーデなると」を導入に取り上げる。子供に身近な存在を教材に取り上げることで地震・津波にそなえる取組へ興味をもたせ、より切実に自分事として地震・津波に備えて自分自身ができることを考えるのではないか。そして、小学校区、鳴門市、徳島県へと広げて調べる単元構想にすることで、子供の意識が徐々に広がり思考の流れがつながりやすいのではないか。

② 子供の意識をつなげる振り返りの工夫

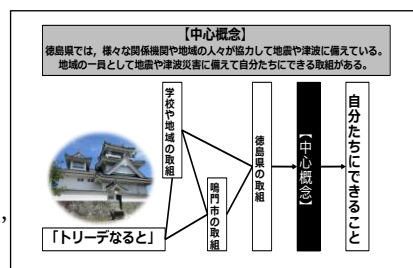
どの授業も振り返りを書く時間を十分に確保することで、本時でわかったことや疑問に思ったことをまとめることができ、思考を整理することができるのではないか。また、授業の始めには教師が意図的に前時の振り返りを取り上げることで、前時の振り返りから本時に学ぶことを明確にすることができるのではないか。

(2) 単元の各段階における判断場面の設定

「問題をつかむ」段階で『トリーデなると』があれば地震が起きても安全か』の判断をもとに、「調べ確かめる」段階においても、学習した取組で安全になるかを判断させることにより、その他の地震や津波への取組の予想が立てやすくなり、調べ学習へ意欲的に進むことができるのではないか。

(3) 見方・考え方を働かせる教師の手立て

鳴門市危機管理課や川東地区自主防災会から頂いた資料や学習した内容を振り返ることができる壁面掲示をし、子供が常に見ることができるようにすることで、単元で学んできたことが整理でき、社会に対する見方・考え方を働かせることができるのではないか。



3 研究の実践

(1) 単元の目標

- 地震津波災害から地域の安全を守るための諸活動について、人々の生活と関連させながら理解するとともに、調査活動や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 地震津波災害から地域の安全を守るための諸活動の特色や関連機関や人々の協力を捉えて、そうした取組の意味を考え、地域に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。
- 地震津波災害から地域の安全を守るための諸活動について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

(2) 展開の概要【11時間】

三層……Ⅰ問題把握・Ⅱ意味把握・Ⅲ発展

六段階…①問題をつかむ・②予想を立てる・③調べ方を決める

④調べ確かめる・⑤みんなで考え話し合う・⑥広げ深める

三層	六段階	○学習内容 ・子供の反応
I	①	<p>①鳥居記念館の建物がなぜ「トリーデなると」として残されたのかを考えよう。 ・なぜ鳥居龍蔵記念館だったのに閉館後も建物が残されたのだろう。</p> <p>②「トリーデなると」に行き、建物やその周辺を調べよう。 ・この辺りで高い場所はここだけだ。 ・「防災用備蓄倉庫」と案内板に書いてある。</p> <p>③鳴門市の人になぜ「トリーデなると」がリニューアルオープンしたのか聞いてみよう。</p>
		<p>「トリーデなると」があれば大きな地震が起きても安全だ</p>
	②③	<p>④地震津波災害から人々を守るためにどのような取組がされているのか予想し、調べる計画を立てよう。 ・「トリーデなると」以外にも林崎小学校も避難場所だ。 ・鳴門市がいろいろな取組をしていると思う。</p>
II	④	<p>⑤林崎小学校の地震津波対策について調べよう。 ・鳴門市が林崎小学校を避難場所に指定し管理している。</p> <p>⑥地域の人の地震津波対策について調べよう。 ・川東地区自主防災会の人々が防災訓練を実施したり、災害への備えを呼び掛けたりしている。</p> <p>⑦鳴門市の地震津波対策について調べよう。 ・鳴門市は地震が起きた時だけでなく、起きる前から防災への取組をしている。</p> <p>⑧徳島県の地震津波対策について調べよう。 ・徳島県は市町村や各機関と連携して地震や津波から人々を守る取組をしている。</p>
		<p>⑨地震津波災害が起きた時、人々を守るためにどのような取組がされているのか関連図にまとめよう。</p> <p>・地震津波災害が起きた時、徳島県や鳴門市、自主防災会など様々な機関が連携して私たちを守ってくれる。</p>
	⑤	<p>⑩地震津波が起きた時、自分自身の命を守るためにできることを考えよう。 今の取組があれば大きな地震が起きても安全だ</p> <p>【本時のめあて】わたしたちは、どうすれば地震津波災害から命を守ることができるだろう。</p> <p>・公助や共助に頼っているだけではいけない。 ・地震が起きた時、助けが来るまでは自分の命を自分で守る。 ・地震が起きる前から、様々な情報を手に入れて、備えをする必要があると思う。</p>
III	⑥	<p>⑪地震津波が起きた時、自分自身の命を守るための行動をまとめた「私の防災計画」を作ろう。 ・「トリーデなると」の災害用備蓄倉庫には食料が少なかったから、食料を防災バッグに入れよう。 ・家族と避難場所を相談しておこう。 ・地域の人と顔見知りになるために防災訓練に参加しよう。 ・地域の人と声を掛け合って助け合おう。 ・日ごろからサイレンや人の話をしっかり聞こう。</p>

4 研究のまとめ

- 「トリーデなると」を用いて単元導入を行ったことにより、子供の興味関心が高まり、単元を通して切実さをもって自分事として考える姿が見られた。
- 授業の始めに前時の振り返りを行うことにより、前時までの学習を想起することができ、子供の意識が本時学習にスムーズにつながった。
- 各段階に「学習した地震津波への取組があれば安全か」というゆさぶり発問をすることにより、さらに安全にするにはどうすればよいかを繰り返し考え調べることができた。
- 自主防災会の会長をゲストティーチャーに招き、頂いた資料を常時掲示することにより、地域の人の活動について認識を深め、防災訓練等に参加する意義をより深く認識し、地域の一人として参加しようという意欲をもつことができた。
- タブレットが導入され活用していくにしたがって、資料がさらに膨大になり、使用する資料の選択や精選が大きな課題となるのではないかと感じている。